

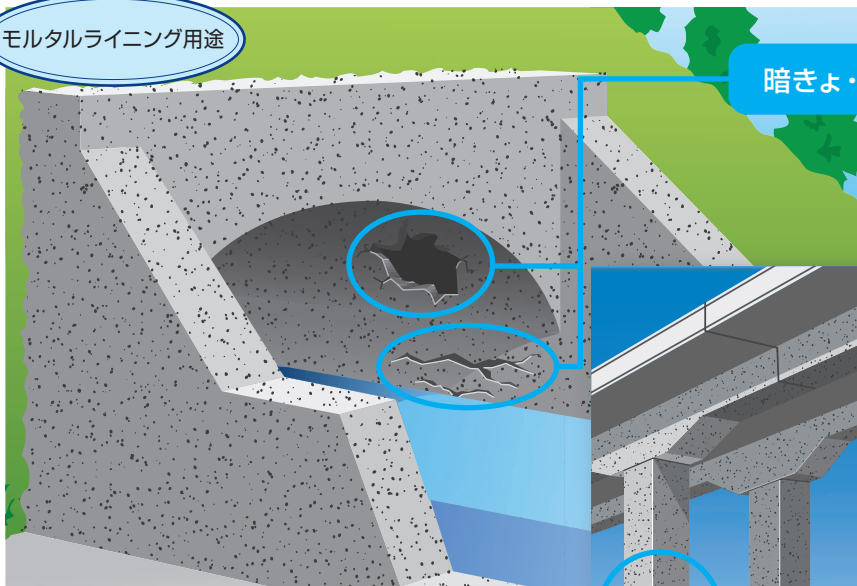
デンカRIS 322エース

適合規格：NEXCO 構造物施工管理要領 左官工法による断面修復材の品質規格

高性能断面修復材（特殊ファイバー入） 急硬プレミックスタイプ（1材）

RIS 322エース

モルタルライニング用途



暗きょ・トンネル

土木コンクリート構造物の断面補修用途

荷姿

○ 12.5kg 紙袋



橋梁・栈橋・柱
はり・壁
天井スラブなど

特徴

- ポリアクリル酸エステル（PAE）系粉末ポリマー混入タイプです。
- 容易な施工が行なえる1材のプレミックスタイプです。
（所定量の水のみを加え練り混ぜるだけで使用可能）
- 高い付着性能を有します。
- 特殊ファイバーを混入しておりひび割れ抵抗性にすぐれます。
- 耐中性化、水密性に優れ、長期耐久性にすぐれます。
- 標準的な塗り厚は1層あたり約10~20mmです。
- 小型ポンプによる吹付けも可能です。

配合

標準配合

	RIS322エース	水
1袋あたり	12.5kgの場合	1.8kg
1㎡あたり	1,750kg	245kg

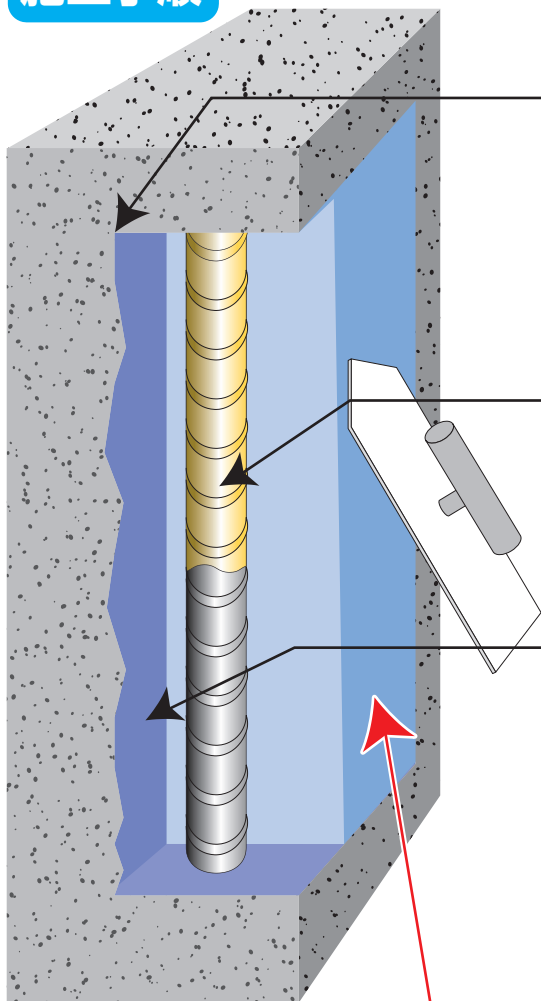
※1袋の練り上がり量 12.5kg袋=約7ℓ
 使用量：1㎡に対して塗り厚10mmで、RIS322エースを17.5kg使用します。この条件で12.5kg袋あたり0.7㎡施工可能です。

物性値（1例）

試験項目	試験値	試験方法	試験項目	試験条件	試験値	試験方法
硬化時間	1時間	JIS R 5201	熱膨張性	硬化収縮試験後	$1.4 \times 10^{-5}/^{\circ}\text{C}$	JIS K 6911
断面修復材の外観 （塗装なし）	均一で、われ、はがれ、ふくれなし	JIS A 6909	コンクリートとの付着性	湿潤時	2.50N/mm ²	JIS A 6909
				耐アルカリ性試験後	2.08N/mm ²	
塗装塗膜との付着性	温冷繰返し試験後	2.18N/mm ²				
硬化収縮性	0.03%	JIS A 1129-3	圧縮強度	7日	30.4N/mm ²	JIS R 5201
				28日	35.4N/mm ²	
			曲げ強度	7日	7.3N/mm ²	
				28日	9.2N/mm ²	

※その他ラインアップ豊富：一般タイプ（RIS321エース）、早強タイプ（ラビッドエース）、急硬軽量タイプ（RISライトハードエース）、吹付けタイプ（スプリードエース）など

施工手順



1 コンクリート前処理

カッター切



2 鉄筋防錆処理

錆び落とし (鉄筋)
防錆処理 (RIS防錆ペースト)

防錆ペースト配合

項目	RIS防錆パウダー	RIS111	塗布量
1袋当たり(kg)	12.5	5.0	600~900g/m ²
m ³ 配合(kg/m ³)	1350	540	(標準750g/m ²)

RIS防錆ペースト1袋で約18.7m²分の鉄筋表面に塗布できます。
※RIS111防錆ペーストも使用可能、別途RIS111カタログをご参照ください。

3 プライマー処理

プライマー塗布
(RIS211E)



プライマー配合	RIS211E	水	合計
重量比	100	200	
1m ² 当たりの配合量	50g	100g	150g (3倍希釈)

4 練混ぜ

ハンドミキサーもしくは
左官ミキサーにて練混ぜる。

【練混ぜ時間の目安】

ハンドミキサー：2分程度
左官ミキサー：5~6分



5 塗付け

RIS 322エース

下地処理状態を確認し、適正な塗付け厚で行う。



6 養生

モルタルが急激に乾燥しないよう、シート養生等を施す。
モルタル硬化後は養生剤 (RIS211E、RIS フルコート) を塗布する。

※詳細は施工要領書を参考にしてください。

Denka

警告



●水や汗・涙等の水分と接触すると強いアルカリ性になり、皮膚、目、呼吸器等を刺激したり、粘膜に炎症を起こします。●目に入れないこと。入った場合は、直ちによく洗浄し、専門医の診断を受けること。●皮膚に付けないこと。●鼻や口に入れないこと。●保護メガネ、防塵マスク、ゴム手袋を着用すること。●子供に触れさせないこと。

【使用上の注意】

- RIS322エースに他のセメント、砂、混和材(剤)等を加えないでください。
 - 使用水量は材料温度、環境温度、ミキサの形式、練り量などにより変化します。使用前に試し練りで適正水量を確認してください。
 - 乾燥した冷暗所で保管してください。開封後は直ちに使用してください。
 - 特に亜硝酸リチウムの添加は有害なNoXガスが発生しますので絶対に行わないでください。
- #### 【データ等記載内容についてのご注意】
- 本書記載のデータ等記載内容は、代表的な実験値や調査に基づくもので、その記載内容についていかなる保証をなすものではありません。
 - ご使用に際しては、必ず貴社にて事前にテストを行い、使用目的に適合するかおよび安全性については、貴社の責任においてご確認ください。
 - 本書記載の当社製品およびこれらを使用した製品を廃棄する場合は、法令に従って廃棄してください。
 - ご使用になる前に、詳しい使用方法や注意事項等を技術資料・製品安全データシートで確認してください。これらの資料は、当社の担当部門にご用意してありますので、お申しつけください。
 - 本書の記載内容は、新しい知見により断りなく変更する場合がありますので、ご了承ください。